

「神殿税を払うイエス」

§ 088 マタ 17 : 24~27

1. はじめに

(1) 文脈の確認

- ①山頂体験と麓の体験
- ②2度目の受難予告
- ③きょうの箇所も、弟子訓練という文脈で読む必要がある。
- ④ペテロへの個人レッスンである。
- ⑤時代的、文化的背景を理解し、そこから普遍的教えを抽出する必要がある。

(2) A. T. ロバートソンの調和表

「メシアであるイエスが、2分の1シケルの神殿税を払う」 (§ 89)

マタ 17 : 24~27

2. アウトライン

- (1) 起：モーセの律法の規定
- (2) 承：宮の納入金を集める人たちの登場
- (3) 転：イエスの教え
- (4) 結：銀貨をくわえた魚の奇跡

3. 結論：

- (1) 神の方法と人間の責務
- (2) 信者の特権

銀貨をくわえた魚の奇跡を、私たちの生活に適用してみる。

I. 起：モーセの律法の規定

1. この記録は、マタイの福音書にのみ出てくる。

- (1) 読者はユダヤ人である。
 - ①ユダヤ人には大いに関心のある内容である。
 - ②異邦人には、興味のない話である。
 - ③モーセの律法の規定を知らないと何が起っているかを理解できない。

(2) 出 30 : 11~15

「【主】はモーセに告げて仰せられた。『あなたがイスラエル人の登録のため、人口調査をするとき、その登録にあたり、各人は自分自身の贖い金を【主】に納めなければならない。これは、彼らの登録によって、彼らにわざわいが起こらないためである。登録される者はみな、聖所のシェケルで半シェケルを払わなければならない。一シェケルは二十ゲラであって、おのおの半シェケルを【主】への奉納物とする。二十歳、またそれ以上の者で登録される者はみな、【主】にこの奉納物を納めなければならない。あなたがた自身を贖うために、【主】に奉納物を納めるとき、富んだ者も半シェケルより多く払ってはならず、貧しい者もそれより少なく払ってはならない」

- ①人口調査のたびに、半シェケルを支払う。
- ②これは、幕屋と礼拝を維持するための財源となる。
- ③彼らをわざわいから守る「贖い金」である。
- ④これが、納めるための動機となる。
- ⑤富む者も貧しい者も、等しく半シェケルを支払う。

(3) 歴史的展開

- ①バビロン捕囚からの帰還後、神殿税となる。

「私たちは、私たちの神の宮の礼拝のために、毎年シェケルの三分の一をささげるとの命令を自分たちで定めた」(ネヘ10:32)

*神殿での礼拝維持のために、毎年捧げること定めた。

*減額されて、3分の1シェケルとされた。

- ②イエスの時代になると、毎年、過越の祭りの時期に納める神殿税となった。

*額は、2分の1シェケル。

*離散の地にいるユダヤ人も、これを支払った。

*ユダヤ人の民族的連帯の表現でもあった。

*慈善によって生活している人たち、物乞いたちには、強制しなかった。

2. 律法に対するイエスの姿勢

- (1) モーセの律法は、完ぺきに守られた。

「まことに、あなたがたに告げます。天地が滅びうせない限り、律法の中の一点一画でも決してすたれることはありません。全部が成就されます」(マタ5:18)

- ①モーセの律法に違反したなら、その者はメシアとは言えない。
- ②イエスが律法の要求を満たしたので、私たちは律法の責めから解放された。

- (2) しかし、口伝律法は否定された。

- ①パリサイ人との論争は、口伝律法を巡るものであった。

- (3) この年、イエスは神殿税を納めていなかった。
- ①過越の祭り(春)の時期に納税する。
 - ②すでに仮庵の祭り(秋)の時期になっている。
 - ③約半年、納税が遅れていた。

II. 承：宮の納入金を集める人たちの登場(24節)

1. 24節

「また、彼らがカペナウムに来たとき、宮の納入金を集める人たちが、ペテロのところに来て言った。『あなたがたの先生は、宮の納入金を納めないのですか?』」

- (1) 徴税役の人たちが、イエスの一行がカペナウムに戻るのを待っていた。
- ①その年、イエスとペテロは、神殿税を納入していなかった。
- (2) 「あなたがたの先生は、宮の納入金を納めないのですか?」
- ①つまり、あなたがたの先生は、律法に違反するののかという意味である。
 - ②もしそうなら、イエスはメシアとは言えない。

2. 25節 a

「彼は『納めます』と言って、家に入ると、」

- (1) ペテロは、「はい」(ギリシア語でナイ)と言った。
- ①強意の「はい」である。「もちろん」という意味。
- (2) 彼は戸惑ったことであろう。
- ①モーセの律法の規定なので、違反することは考えられない。
 - ②彼自身が、なぜ支払わないのか疑問に思っていたであろう。
 - ③貧しい懐具合を考えたことであろう。
 - ④イエスの名誉を守るために、とりあえず「もちろん」と答えておいた。
- (3) イエスに対してどう切り出したらよいか考えながら、家に入った。
- ①定冠詞がある。カペナウムの家と言えば、ペテロの家である。

III. 転：イエスの教え

1. 25節 b

「先にイエスのほうからこう言い出された。『シモン。どう思いますか。世の王たちはだれから税や貢を取り立てますか。自分の子どもたちからですか、それともほかの人たちからですか』」

(1) イエスは、すべてを知っておられた。

①旧約聖書の預言者たちは、同様の知識を示している。

②1サム9:20、1列14:6、2列5:26、6:32

(2) イエスから先に質問された(ラビ的教授法)。

「シモン。どう思いますか。世の王たちはだれから税や貢を取り立てますか。自分の子どもたちからですか、それともほかの人たちからですか」

①当時のローマ帝国では、王の子どもたちは納税を免除された。

*パレスチナにおいては、ローマの市民権を持つ者は、免税された。

②ユダヤ教でも、免税という概念は知られていた。

*祭司たち、神殿で仕える者たちは、それを自分に適用した。

2. 26節

「ペテロが『ほかの人たちからです』と言うと、イエスは言われた。『では、子どもたちにはその義務がないのです』」

(1) ペテロは、正しく回答した。

①王たちは、自分の子どもたち以外の者たちから税を取り立てる。

②現代の民主主義社会では、あり得ないことである。

(2) 「では、子どもたちにはその義務がないのです」

①子どもたちは、納税を免除される。

②イエスの論点

*神殿は父の家である。

*イエスは父の息子である。

*それゆえ、神殿での礼拝維持のために税を納める必要はない。

*イエスの弟子たちは御国の子どもたちであるので、免税される。

(3) マタイの福音書の読者たちは、イエスのことばをどのように受け止めたのか。

①イエスは、モーセの律法に違反しているのではない。

②イエスはユダヤ教の希望であるがゆえに、神殿税を払う必要がない。

IV. 結：銀貨をくわえた魚の奇跡

1. 27節

「しかし、彼らにつまずきを与えないために、湖に行って釣りをして、最初に釣れた魚を取りなさい。その口をあけるとスタテル一枚が見つかるから、それを取って、わたしとあなたとの分として納めなさい」

(1) ユダヤ人の指導者たちは、イエスを糾弾する理由を捜していた。

- ①イエスは、このような些細なことで問題を起こしたくはなかった。
- ②相手の要求を呑むことにした。

(2) ペテロに、好きなことをするように命じた。

- ①ペテロは、ガリラヤ湖に釣り糸を垂れた。
- ②最初に釣れた魚の口に、銀貨が見つかる。
- ③スタテル銀貨=4 ドラクマ (4 デナリ)
- ④ひとり分の税は、2 デナリ (労働者2日分の賃金) であった。

2. 話はここで終わっているが、ペテロがイエスの命令通りにしたことは明白である。

(1) ちなみに、ペテロの魚と言われている魚は、銀貨を加えることができるほどの大きさの口を持っている。

- ①しかし、ここに出てくる魚は、ペテロの魚ではない。
- ②恐らくナマズであろう。

結論

1. 神の方法と人間の責務

(1) イエスの全知

- ①ガリラヤ湖のどの魚が銀貨を加えているかを知っていた。
- ②その魚がどこにいるかを知っていた。
- ③ペテロが最初に釣る魚がそれであることを知っていた。

(2) イエスは銀貨を直接与えないで、ペテロの働きを要求した。

- ①神は、人を用いて働かれる。
- ②ここでは、ペテロが好きなこと、得意なことを命じている。

2. 信者の特権

(1) イエスの弟子たちは、天の御国の子どもたちとしての特権を持っていた。

(2) クリスマンには、自由がある。

①ロマ8:15~16

「あなたがたは、人を再び恐怖に陥れるような、奴隷の霊を受けたのではなく、子としてくださる御霊を受けたのです。私たちは御霊によって、『アバ、父』と呼びます。私たちが神の子どもであることは、御霊ご自身が、私たちの霊とともに、あかししてくださいます。もし子どもであるなら、相続人でもあります。私たちがキリストと、栄光をともに受けるために苦難をともにしているなら、私たちは神の相続人であり、キリストとの共同相続人でもあります」

(3) しかし、クリスマンは自由の行使を制限する。

①ガラ5:13

「兄弟たち。あなたがたは、自由を与えられるために召されたのです。ただ、その自由を肉の働く機会としないで、愛をもって互いに仕えなさい」

②些細なことで論争する必要はない。